

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

NPO法人

はなのいえ

公表日：2019年 3月 22日

事業所名：

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価 (H30年5月アンケート実施)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	定員（児童発達支援2名、放課後等デイサービス8名）に対し、専用の活動スペースは約35㎡確保している。他にも農園、田んぼ等、体験活動を行う場所がある。	85%の方が満足されています。	現状を維持し、子供達が使いやすいよう工夫していきます。
	2 職員の適切な配置	基準を満たした職員数＋加配職員を配置している。（保育士、教員免許等、有資格者が基本）	92%の方が満足されています。	必要な人員配置を維持し、臨機応変に対応していきます。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	①個別活動エリア、グループ活動エリア、トランジションエリア（スケジュール確認の場）等、室内の構造化を行っている。 ②情報伝達は具体物やカード、文字等、個々に合わせた伝え方を工夫している。 ③出入口やトイレ等には手すりの設置や、可動式スロープを使用し、バリアフリー化に努めている。	78%の方が満足されています。	子供達のニーズに合った環境を整備していきます。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	グループ前後の清掃を行い、活動内容や子どもの特性に合わせて、レイアウトの変更など環境調整を行っている。		今後も継続して清潔で過ごしやすい空間を維持していきます。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	曜日グループごとのリーダーが主となって業務日誌による目標設定と振り返りを行い、会議で共有し改善や継続のアクションを決めている。		
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	定期的に第三者評価を受けており、業務の改善につなげている。		

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価 (H30年5月アンケート実施)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	各専門分野の研修会への参加、内部研修の実施等により資質向上に努めている。		
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者や学校等各種関係機関への聞き取りや、アセスメントツール・行動観察により子どもの状況を捉え、ニーズや課題を客観的に分析したうえで支援計画を作成している。	満足していただいています。	今後も継続して、適切なデイサービス計画の作成を行います。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個々の状況に応じ、①個別②小集団（2～3人）③集団（～10人）を適宜組み合わせて支援計画を作成している。		今後も継続して、適切なデイサービス計画の作成を行います。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	目標に対応した活動を設定し、日々の具体的な支援内容を記載している。家庭の中でも汎化できるようつなげている。		今後も継続してデイサービス計画に沿った支援の実施に努めます。
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画をもとに実施している。		今後も継続して支援計画に沿った支援の実施に努めます。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	製作、外出、感覚運動、SST、クラブ活動等、各主担当が年間計画を作成し、前月に全体で相談のうえ立案している。	満足していただいています。	今後もチーム全体でプログラムの立案に携わっていきます。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	それぞれの日に適した活動内容・スケジュールを組むよう、学校の行事や気候等にも配慮して支援している。必要な時は個別対応も行っている。		

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価 (H30年5月アンケート実施)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供（続き）	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施 グループごとに、①週替わりプログラム②継続的プログラム③個別プログラム（該当児のみ）を組み合わせ活動している。 週替わりプログラムは「製作、外出、感覚運動、SST、クラブ活動」などテーマごとに毎月予定表を出している。		子供達が飽きないような工夫をしていきたいと思います。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底 支援前のミーティングでは、①当日の業務日誌（予定表・注意点等記載）②プログラム計画書（ねらい・支援内容等記載）に目を通しながら、個々の支援方法や配慮すべき点を共有し、役割の確認を行っている。		打ち合わせでは、職員間で意見を出し合い、支援内容や役割分担の確認を徹底していきます。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化 ケース記録を記入しながら活動の振り返りと児の課題を確認している。また、必要な情報を整理し、月の会議で報告している。		次回同ような反省を繰り返さないためにスタッフ間で情報を共有していきます。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施 【ケース記録】記録、評価の様式は支援計画の項目・領域に対応しており、日々の評価が計画の見直しにつながっていくよう留意している。 【業務日誌】曜日ごとのグループに分かれているため、グループ単位での評価や記録を行っている。		継続していきます。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し 個々に合わせたタイミング（1ヶ月～6ヶ月）で計画の見直しを行っている。		継続していきます。
	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画 管理者が参加する機会が多いが、必要に応じてケース担当者が参加することもある。		サービス担当者会議には、積極的に参加する予定にしています。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価 (H30年5月アンケート実施)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	2	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校（小学部）等との間での支援内容等の十分な情報共有	できるだけ事業所や保育所、学校への聞き取りを行い、可能な時は様子を見に行かせて頂いたり、支援計画を見せて頂いたりして情報共有に努めている。		引き続き情報の共有に努めていきます。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	相談支援専門員を通して、個別支援計画の提出や情報提供を行うよう努めている。		引き続き情報の共有に努めていきます。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	必要な時は保護者同意の上で専門機関へアドバイスを依頼するなど連携できるよう努めている。 研修の案内を職員に配布し受講を勧めている。		研修に積極的に参加するよう勧めていきます。

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価 (H30年5月アンケート実施)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	地域の児童館や公園等に行って地域の子どもたちと遊び、交流を図ってる。	長期休暇等に外出を望まれています。	地域との交流の場が持てるように働きかけていきます。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	夏まつりやもちつき大会を開催し、利用者はもちろん、地域住民の方にも参加していただいている。		引き続き、地域に開かれた事業所の運営を目指していきます。
保護者への説明責	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	見学、契約の際に丁寧に説明するよう努めている。	満足して頂いています。	保護者に分かりやすい伝え方を心がけます。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	面談で子どもの様子、課題を一つ一つ確認しながら、どのようにアプローチしていくか共有し、支援計画に対応する活動内容まで丁寧に説明している。	満足して頂いています。	保護者に分かりやすい伝え方を心掛けています。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニングの機会を設けるまでには至っていないが、日々子どもの今の様子を共有し、必要な関わりを整理したり提案したりできるようにしている。		保護者の疑問に答えられるように、職員が勉強をして質の向上を目指していきます。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡ノートや送迎時の会話、電話等で日頃の様子について情報共有し、支援経過を伝えている。	満足して頂いています。	保護者との連絡を密にとるよう心掛けます。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	相談があった時には、職員間で話し合い、答えるようにしています。	満足して頂いています。	保護者の相談を聞く環境を整えます。

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価 (H30年5月アンケート実施)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
連携支援	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現在、行っていません。		今後開催予定を立てています。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情が上がった時には、保護者への説明と改善すべき事柄を話す体制を整えています。		保護者の思いをしっかり受け止め、速やかに改善するよう心掛けます。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	保護者の方には、どのような方法だと伝わりやすいか確認を行い、蜜に連絡をとるなど丁寧にフォローするよう努めている。		引き続き連絡漏れの内容に対応していきます。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	①毎月施設全体の新聞発行（はなのいえ通信）②Facebookでイベント告知や活動報告③月間プログラム予定表④適宜イベントのチラシなどを通して保護者へ発信している。	はなのいえ通信を楽しみにしていただいています。	新聞の発行を継続して行います。
10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の取り扱いには十分気を付けて行っています。	ご理解いただいています。	今後も個人情報の取り扱いには注意を払って行います。
非常	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時・防犯・感染症対策の各マニュアルを作成し、保護者の方には面談時に説明し確認してもらっている。		引き続き保護者の方にも、周知徹底できるよう心掛けます。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年に2回、火災と地震の避難訓練を行っている。災害について考える機会や具体的な避難の練習の機会となるよう活動プログラムとして取り入れている。		今後も継続して避難訓練を実施します。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	定期的な研修会の実施や行動の振り返り等アンケートを行い、言動への意識を持つよう働きかけている。		子供達の小さな変化を見逃さないように心掛けます。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価 (H30年5月アンケート実施)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
時 等 の 対 応	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	姿勢の保持等に関して必要な場合、専門職の評価と保護者の同意のもと行っている。その際は関係機関や相談支援専門員への報告・相談を行うなど情報共有に努めている。		保護者との連絡・確認を密に行います。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	保護者からの聞き取りにて対応しています。		今後も保護者への聞き取りを行い、対応を行っていきます。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットが発生したら、直ちに管理者に報告するとともに、報告書を作成し、職員のミーティングの場でも周知徹底している。報告書はファイリングして保管をしている。		ヒヤリハットを職員間で共有し、同じことが起こらないように徹底します。